

令和4年度

中学生の「税についての作文」

入選作品集

日野市



南多摩納税貯蓄組合連合会

※受賞者の方から承諾を得られた範囲で掲載しております。

令和4年度 中学生の「税についての作文」優秀作品

日野市長賞

私と医療と税金

日野市立日野第四中学校

三学年 王子 由良

私は、今年に入ってから、毎朝立ちくらみや吐き気といった症状に襲われて辛い思いをするようになり、久しぶりに病院を受診した。採血などの検査をして数日後に結果が出て、貧血だということが分かった。そしてここから、採血をしたり薬をもらいに毎月病院に行くという日々が始まった。

ある日、病院の受診が終わって家に帰った後、私は自分がどんな検査をしたのかが気になり、検査についての紙を見てみた。そこには、検査にかかった費用が「円」ではなく、「点」と書かれていた。このことについて母に尋ねてみると、この「点」というものは、一点につき十円らしい。例えば、百点の場合には千円になるということだ。私の紙に書かれていた検査費用は、円に換算すると「少し高い」と思うような金額だった。いつも「嫌だな」と思いながらも当たり前のように採血をして薬をもらう。この工程に、自分が思っているよりもたくさんのお金がかかっていた。このことに私はとてもびっくりした。しかし、病院の受付まで付き添った時に、毎回母が高いお金を払っているところは見たことがなかった。気になったので、インターネットで少し調べてみると、私たちが買い物など、普段から様々な場面で払っている税金によって、母子家庭などの家計が厳しい人達の医療費が無料になっていることが分かった。この他に

も、予防接種やがん検診を無料で受けることができたり、子どもの進学費用の負担を減らしたりしてくれるらしい。実際、私は母子家庭なので、医療費が無料となる対象である。だから、病院の受付で母が高いお金を払っているところを見たことがなかったのだ。調べてみて、無料で医療を受けられることのありがたさがとてもよく分かった。しかし、現在無料で医療を受けられるのは、日本国民の中でも数少ないだろう。中には、医療を受けたくても受けられない人もいるかもしれない。今まで私は、「税金ってなんで払わないといけないんだろう」と思っていたけれど、それは、今を生きる世の中の人々が毎日を健康に過ごすためにとっても大切なものだからだということが分かった。現在、スウェーデンやイギリスでは、税金が他の国より少し高いものの、医療費がみんな無料だそうだ。日本でも、みんなが税を払うことで、無料とは行かずとも、多くの日本国民が今よりも充実した医療を受けられるようになれば良いと思う。そのため、買い物をするだけでもできる少しの納税を大切にしながら毎日を過ごしていきたい。

無料になっていることが分かった。この他に

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会

優秀賞

税を知って見えた未来

日野市立平山中学校

三学年 茅野 心温

私の叔父はNGOの活動の一環で、フィリピンに行ったことがあるそうだ。当時、叔父は山奥に住む少数民族に農業を教えるプロジェクトに参加していた。しかし、その民族の

住む山は「マフィア」と呼ばれる組織的な犯罪集団に狙われていた。そのため、叔父のプロジェクトチームの現地のスタッフは常に銃を携帯していたそうだ。幸い叔父たちが滞在している時はマフィアに遭遇することはなかった。しかし、民族によるとマフィアは高頻度でやってきて、自分たちの利益となるような木の伐採や数少ない動物の狩猟などをするそうだ。もちろんそのような組織は多く武器を保持している。対抗できるだけの戦力をもたない民族たちは、自分たちの暮らす山がどんな姿にされようと従うしかないのだ。

私はこの話を聞いたとき、とても衝撃を受けた。同時に、なぜフィリピンではこのような悲劇が起こってしまったのかと疑問に思った。調べてみると、日本とフィリピンには財政面で大きな違いがあることが分かった。フィリピンは日本に比べて財政が逼迫している。それは、税金が十分に集まらないことが背景にあるそうだ。実際、自営業のうち半数以上は税を納めていないというデータもある。むしろ、マフィアなどの犯罪組織も税を納めていない。税金が集まらないことで国の財政

が困窮し、農村部への支援が行きとどかない。それによって組織犯罪も絶えない。これが厳しい現実なのだ。

私は、今まで税に対して払わなければならぬということは何となく分かっていたが、なぜ払う必要があるのかはよく分かっていなかった。しかし、叔父の話を通して、税がいかに私たちの生命や暮らしを支えているのか実感することができた。

日本では、毎年百兆を超える税金が私たち国民のために使われている。その使いみちは社会、教育、地方自治など多様にある。私たちが武力によって脅かされたり、誰かに自由を制限されたりすることなく生活できているのは、税金のおかげだ。もちろん、以前の私のようになぜ税金を払うのか分からず、無駄な出費だと考えている人も少なくないだろう。しかし、国民一人一人が税を納めることで安全でよりよい社会を築いていくことができる。日頃あたりまえのように支払っている税金はやがて百兆という膨大な金額となり、日本を支えている。また、税金は発展途上国など他国の支援にも使われている。叔父のように直接的な支援ができなくても、税金を納めることで間接的ではあるが支援の一助となる。税金はただの負担ではない。税を納めればどこかで苦しんでいる見えない誰かに手を差し伸べることができる。そう思ったとき、私の目に明るい未来が映ったような気がした。

東京納税貯蓄組合総連合会 会長賞

私と税金の関わり

日野市立日野第一中学校

三学年 三塚 小街

成対象になっていて、医療機関で治療を受けた時の保険診療の自己負担分を助成することができます。この制度に私は助けられていたんだなと思いました。

私は税といっても、税金の使われ方や税の仕組みなど全くと言っていいほど知りませんでした。ニュースで税について報道されていた時も私には関係ないと感じていました。しかし、普段は考えてもいないところで、私は税金によって助けられていること、より良い生活ができていくこと、支えられていることがわかり、私と税は深く関わっていました。

私は小さい頃、喘息を持っていて、夜中「ゼーゼー、ヒューヒュー」という喘鳴や激しい

咳、息苦しきで寝れなくなり、寝る前は必ず薬を飲んでいました。また、体が弱く週に一回は必ず熱を出したり、百日咳の疑いで入院した私は病院の先生の受診や薬のおかげで助かり、今も元気に学校に行って、友達と一緒に勉強したり、部活に励んだり、遊んだりできているのだとお母さんが教えてくれました。

そのほかに、中学三年間バスケットボール部に所属していた私は、怪我が多く整骨院に居

た時の保険診療の自己負担分を助成することができます。この制度に私は助けられていたんだなと思いました。

ついていました。整骨院では、マッサージ、テーピングを欠かさずしてくれて、私たち三年生の引退試合で良い結果を残せたのもそのおかげだし、今も楽しく大好きなバスケットができていくのもそのおかげだと感じています。こんなことが税金に関わっているのか普段は考えてもいませんでした。

私は、税金のおかげで学校に通えて、勉強や部活ができて、大切な友達と出会い、健康に暮らせて、幸せに生きています。子どもは未来を支える税金の在り方や必要性を知ることとで、税金のありがたさを実感しました。今の私は税金にたくさんお世話になっていますが、将来は立派な納税者になって、自分の将来や人の支えになりたいと思います。普段は考えてもいないところでも税金が使われているので、当たり前を当たり前と思わず納税者の方に深く感謝し、私の周りにいる支えてくれている人達に「ありがとう」と言いたいです。

日野市では、「子ども医療費助成」という

制度があり0歳から十五歳の中学三年生が助

東京納税貯蓄組合総連合会 会長賞

今こそ知る税金

日野市立大坂上中学校

三学年 青山 皓平

新型コロナウイルスの影響で、私たちの生活は変化し、国の経済や多くの企業、そして

私たちの学校生活は大きな打撃を受けた。そんな中、医療の充実が必要となっているのは周知の事実だろう。しかし、私たちがずっと、コロナ前から関わってきており、一番注目すべきものは「公費」をはじめとする「税金」であると思う。

今年の夏のある日、僕は起きた後、自分の身体がいつもと違うことに気付いた。頭痛、全身の倦怠感、そして体が熱く感じる。一階のキッチンで母にこのことを伝えると、「熱を測って」と言われた。三十八度六分。母を含む家族全員の顔が青くなっていた。幸いなことに、抗原検査キットで結果を知ることができたので、オンライン診療を受けることが

でき、その日のうちに薬局の人が薬を届けてくれた。その時、「お薬代は？」と聞く母の声と「公費です、大丈夫ですよ。」と薬局の人との会話が聞こえた。後で母に、「公費」とは何か聞いたところ、「税金」の一部だと言われた。興味を持ったので、更に詳しく調べてみたところ、税金がいかにすごいものであることが分かった。

まず公費とは国や自治体が税收を財源として費用の負担を行う制度のことであり、社会的弱者の救済や社会福祉、公衆衛生の向上、難病の治療や研究を目的としたものである。

さらに驚いたのは、私たちの通う中学校でのお金も税金で賄われているということだ。

小学校から高校までの教育費にも公費、つまり税金が使われているということである。自分たちの生活にここまで税金が関わっていたのは想像もしていなかった。

コロナで医療が必要となっている中、税金のありがたさは言葉で表せないほどである。また、いま私たちが払っている消費税などが「公費」として私たちの生活を支えていると思うと、これからのお金を払う時、また医療を受けている時に「税金はこんなところにも使われているんだな、僕たちの生活を支えてくれているんだな」と日々の生活に感謝して生きることができるようだろう。今回のコロナ禍で、僕たちは税金の在り方を改めて知ることとなった。今後はそのようなことも意識しながら生活したいと思う。

東京納税貯蓄組合総連合会 会長賞

身近にある税金

日野市立大坂上中学校

三学年 茂木 なつみ

私には、妹がいます。その子は生まれつき障害を抱えていて自由に歩くことや、自分でたんを飲み込むことができません。

身近にある税金を考えたとき、一番に思いついたのは妹のことです。税金で助けてもらっていることを母に聞きました。その時、学校や病院に行くときに必ず必要になる車椅子やたんを吸引するための機械を購入する時などの補助金だと言っていました。この補助金があることで、妹に必要な医療器具を購入するときに本来自分が払う値段より安く購入することができます。また、妹は放課後にデイサービスに通っています。私たちという学童みたいな所です。そこでも税金が使われています。デイサービスでは先生たちと遊びうれしそうに帰ってきます。「デイは、楽しかった？」と聞くと大きくなるはずき、とびっきりの笑顔を見せます。

なるなどの今までは当たり前にできていたことが、当たり前でできなくなってしまうでしょう。

妹を含め私たちが生活しやすい社会があるのは、税金のおかげだと思います。私は、税についての作文を書くにあたって、私たち家族が税金でどんなことに助かっているか、税金がなくなるとどうなってしまうのか、家族で話し合ったり、自分の中で考えを深めるいい機会になったと思います。私自身では今消費税ぐらいしか税金を払うことはありません。ですが、将来は住民税や所得税などの多くの種類の税金を払うことになります。その時、税金がとられているという感覚ではなく、誰かの助けになれるように、もっと生活しやすい社会になるための資金になるという感覚で税金を納められるような大人になりたいと思いました。

もし、税金という制度がなくなったら消費税や所得税、住民税などの税金を払う必要がなくなり、その分のお金が浮くかもしれません。しかし、それ以上に妹に必要な機械などが高額で大きな負担になったり、妹が楽しみにしているデイサービスにも通いづらくなってしまうかもしれません。それは妹の生活だけではありません。私たちが毎日受けている授業が受けられなくなる、安全な生活には欠かせない消防活動、警察の活動ができなくなる、有料に

南多摩納税貯蓄組合連合会 会長賞

身近な税の使われ方と将来の税

日野市立大坂上中学校

三学年 井上 明音

中学生の私にとって、消費税が一番関わりある税金で、それ以外は、社会の授業で習ったり、ニュースで出てくる言葉として、税に対して特に考えたことはなかった。

だが、私たちの暮らしの基礎は、税によって支えられていると知った。学校などの公共施設、警察や救急車など、より過ごしやすく、安心できる「町」に暮らすために税は欠かせないものとなっている。自身が納めた税金は私たちの社会のために使われ役立っているのだ。

最近、私の身近な所に税が使われ始めた。八十代になる祖父母は、市が行なっている昼食の宅配サービスや、地域の人たちと関わる機会がもてる福祉サービスを受け始めた。これは市役所を通しての福祉サービスだ。外出をしなくなってきた祖父母に、このような機会ができ、父や母が少し安心してもらうに見えた。この福祉サービスで、税金のありがたさをとて身近に感じた。

しかし、その税金のあり方を変えてしまうかもしれないほどの大きな問題が日本にはある。少子高齢問題だ。

老後に健康で安心した生活ができる社会を実現するためには、大きな費用を必要とする。その財源の中心は税金であり、主に大人が支えている。日本は、欧米先進諸国より、高齢化が進んでいる。二〇〇〇年では二十才から

六十四才の大人三・六人が、六十五才以上の高齢者一人を支えていた。しかし、このまま少子高齢化が進んでいくと、二〇五〇年には大人一・三人が高齢者一人を支えることになると予想されている。このことは私たちの世代に重くのしかかってしまう。このままの税金のしくみでは、高齢者を支え続けるのは困難だ。高齢者を支え、今までの過ごしやすい町を作っていくために、どうすることが最善なのだろう。

今、私の生活の中心になっている中学校も税金がたくさん使われている。税金で社会は繋がっているのだ。なんのために税金を払っているのかあまり実感することがなく、良いイメージを持っていない人もいるかもしれない。しかしそれは、不自由なく快適な生活が送れているからこそ思えることだ。

私たちが困ったときに助けてくれる制度は、税金が元になっている。その制度を続けていくために、まずこれからの日本を支えていく私たち学生が学校で学んだり、ニュースを見たりするべきだ。そうすることでこの暮らしを保つための考えが思い浮かぶはずだ。そして私の祖父母が福祉サービスを受けることができ、私や両親が安心できたように全ての人が困難に陥らないように税金が使われていくべきと強く思った。

これからは、税を知っていく努力をし、考えが持てたときには、周りの人と話し合っていきたい。

東京都八王子都税事務所長賞

未来への投資

日野市立大坂上中学校

三学年 松田 沙湖

私の住む町はたくさん自然で溢れかえっている。住宅地のすぐそばにある森林、そこに流れている清流では夏にたくさんの蛍をみることができると言われる。また、日野は全国初の「農業基本条例」を制定した都市であり、地産地消などもさかんだ。しかし、度重なる大雨、日に日に高くなっていく気温、そんな異常気象の影響で私達の町だけではなく全国、更には世界までもがダメージを受けている。

そんな中、私は「森林環境税」という税があることを知った。地球温暖化について騒がれている今、聞いたことのない税だった為、少し興味が湧いた。調べてみると、この税は二〇一九年三月に新しく成立された「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」によって森林の保護、活用や地球温暖化の防止などをすることにあたって必要な財源を確保するために新たに創設された。二〇二四年から、各市町村が窓口となり国税として納税者一人あたり年額千円が徴収される。徴収された森林環境税は一度国へ納められてから都道府県、各市町村に「森林環境譲与税」として交付される。他の国税と比べると私達中学生からしても身近で分かりやすい仕組みだと思う。

実は、「森林環境譲与税」は二〇一九年からすでに交付されているらしい。この税は都道府県・市町村がそれぞれの地域の実情に応じ、て森林の整備、促進に関する事業を幅広く実

施するための財源として活用される。交付を受けた市町村は使用目的を明確にホームページに記載しなければならない。私の町では里山管理の経費や、体育館整備にかかる費用に充てがっていた。納税は義務ではあるが、両親が一生懸命に働いて稼いだお金から出ている税金が社会へ貢献できていることを改めて感じ、娘としてとても誇らしく思う。また、税金の使用目的を明確にすることによって税金の重要性を私達子供にも伝えることができ、「税」への関心をより高めることにも繋がると思う。

「森林環境税」の徴収が始まる二〇二四年からは中学校を卒業し、高校生となっている。二年後、地球温暖化は更に悪化しているかもしれない。世界中で自然火災、干ばつが起きている中、一人ひとりが意識して温暖化への対策をしていかななくてはならない。国は国民の税金で成り立っている。ならば日本の自然も税金で守っていくべきものだと思う。たかが千円。されど千円。人によって千円の価値は違うとは思いますが未来の自分を守るための投資だと思えば千円の価値も変わってくるのではないだろうか。

東京税理士会日野支部長賞

国と国をつなぐ税金

日野市立日野第一中学校

三学年 岸田 陽葵

税の作文が宿題になって、何を書こうかと

迷っていたとき授業でもらったパンフレットを見た。国の税金の歳出の円グラフを見て、税金は経済協力費にも使われているということを知った。詳しく調べてみるとそれは、ODAと呼ばれるもので、「開発途上地域の開発を主たる目的とする政府及び政府関係機関による国際協力活動（のための資金）」のことらしい。

税金は国民に使われるものと思っていたが国際平和を願って開発途上国の経済援助に使われている税があることに驚いた。日本の援助額は2020年で主要国3番目らしい。国際社会の平和を願って、世界の人々のために支援することは大切なことだと思う。ただ、授業では日本の財政はひっ迫していると学んだので、なぜ他国に援助するのか、余裕がないのではないかと疑問に思い、日本のODAについてもっと調べてみると中国へのODAが2020年3月末で終了したという記事を見つけた。

私の知っている中国は大国で、経済援助を受ける必要がないように思った。それなのになぜ日本は中国へ経済援助を行うのか、調べて分かったことはこの援助には中国が戦後賠償を放棄した「見返り」の性質があったことだ。祖父の家で観た中国残留孤児の波乱万丈の半生を描いた物語であるドラマ「大地の子」

で日本から中国へ技術協力があったがそれもODAの一つであったことに気づいた。戦後まもない中国は他国に比べ経済発展が遅れていた。日本のODAはそんな中国の戦後の急速な経済発展に大きく貢献していたのではないかと私は思った。

またODAには他にも重要な役割があるそうだ。それは、これまでの対中ODAには悪化し続ける両国の関係をかろうじてつなぎ止める役割があったということだ。ODAは文化交流などと共に両国をつなぐ手段となっていたのである。

教育費、公共事業費など、税金は私たちに身近なところでたくさん使われている事はなんとなく知っていた。しかし私たちが納める税金が国と国とを結ぶ架け橋にもなっていることを知り、少しだけ誇らしい気持ちになった。また授業でロシアのウクライナ侵攻の影響により、日本でも軍事費を大幅に増やす案が出ていると聞いた。私はODAの事を学んだ今、税金は他国を攻撃するための軍事費に使うのではなく、国と国とが良好な関係を築き戦いが起こるような関係になることを未然に防ぐために使われてほしい、争いを未然に防ぐためにこそ使ってほしいと強く思う。

南多摩納税貯蓄組合連合会 優秀賞

誰一人取り残さない

日野市立日野第一中学校

三学年 石井 千乃

税金、いわゆる税制度がこの日本からなくなってしまう場合を想像したことはあるだろうか。税金は私たちが日々生活する中で、多くの場面で当たり前に、さり気なく出勤し、いわば日本経済の潤滑油の役割として、私たちの暮らしに密接している。その税金がなくなってしまうとき、私たちの生活がどのように変化するか想像しながら、改めて税制度の必要性を認識することとした。

まずは、税金の使用先を調査した。全世界で直面している大きな社会問題のひとつ、新型コロナウイルス関連の対策費用にも、多くの税金が投じられた。ワクチン接種や検査機関の整備、療養施設の準備や支援物資の提供などの対策整備、あるいは、感染拡大防止策との両立が急務となっている経済再生策である各種のGOTOキャンペーンなども税金の支援のもとで成り立っている。著しい感染拡大によって多くの国民が苦しむ中で、税金の力は支援の平等性を保証しているといえるのだ。

また、警察や消防などの事件対応においても、税金が出勤している。日常の取り締まりによって治安を守り、犯罪に遭遇したときや、火災が発生したとき、誰でも平等に彼らに助けを求めることができる。税金の力で、安全性まで保障してくれているのだ。

その他、学校にも多くの税金が使われてい

る。教室や校舎の備品購入や整備、教科書の出版などにも使われているのだ。私たち一人当たりにも使用される補助金もあり、小学校で約八十九万円、中学校では約百一十万円にもなるのだ。私たちが、勉強することができるのも、税金の力があるからこそなのだ。

税金の力は、国境をも越えている。私たちが日本人に留まらず、病気や飢餓で苦しむ諸外国の支援にも使われているのだ。資金援助して、病院建設や医療支援、道路やダム生活整備など、私たちの税金が国境を越えて数多くの人々の支えとなっている。

税金の出勤は、私たちの暮らしに平等性をもたらし、安全を守り、支援している。日本国民の三大義務のひとつである「納税」が、貧富の格差がもたらす生活の不自由さや、埋めることのできない不平等さを補っていたのだ。

「誰一人取り残さない」これは持続可能な開発目標、SDGsの理念であり、税制度もこの理念に合致していることを、今回の調査で知れた。今を生きる私たちは、これからの社会をつないでいくために、税制度の仕組みを理解し、ことあるごとに税金の存在価値を再確認する機会をもつべきなのだと思う。

南多摩納税貯蓄組合連合会 優秀賞

二十円に込める税への決意

日野市立日野第一中学校

三学年 堀田 香南子

シャーペンの芯がなくなったので、お小遣いで買いに行くことがよくある。そのとき私は二百二十円払ってシャーペンの芯を購入することに夢中になっていて、そのうちの二十円、税金として間接的に納めている自覚はない。その二十円が、少人数が桜を見るために使われるのか、誰かの命を救うために救急車を呼ぶために使われるのか、そんなことも気にせず今まで払ってきた。

税金は良くも悪くも多様な使い方がされている。今年になってからも、その使い方について意見が割れるような出来事が起こっている。これに付け加え、公民の授業を通して、政策のためなどに使う費用に対して、集まる費用、つまり税金が足りていないことを知った。その不足を補うために、例えば所得税を増税すると、少子高齢化の影響で少数になった働き手に大きな負担がかかる。では誰もが払う消費税を増税するとなると、今度はお金の余裕がない人にとっては数十パーセントの増税も負担になってしまう。これには増加傾向にある高齢者も含まれる。増税を解決策に取るなら、犠牲者は絶対に出してしまうのだ。少子高齢化を抱える日本がまるでお金に突かれているみたいだ。

だからこそ、使い方をよりいっそう考えるべきだと思う。そして何より、こういうことを考えていると自分達は使い方を決めないか

らと違って、まるで他人事のように文句ばかりが溢れてくる。が、税金の使い方を決める代表の大人たちと、そうでない私たちもみんな同じ日本国民だ。全員に責任がある。税金を納めるということはそういうことで、代表の大人たちが決める税の使い道に選択肢を与えているようなものかなと私は思った。

そういったことの重大さを意識しながら自分は払った税金が誰もが納得するような使われ方がされる権利が必要だと思った。この先も、望まない税金の使い方をされて、どんなに多くの人が反対しても結局どうにもしてくれなかったとき、だったら納税なんてしたくないと思ってしまうかもしれない。自分が成人したときに苦労していたらなおさらだ。でも忘れたくないことは、自分が納税することによって誰かを助けたり、誰かに喜んでもらえたりすることができることだ。不足していようが、みんなが納めているからこそできるのだ。そしてできることなら、「これが誰かのためになる」と清々しい気持ちで納めた税金は、別の形で自分の前に現れてきたときにも同じように清々しい気持ちになれるようなそんな使い方を真っ直ぐに、代表の大人のみなさんに選んでもらいたいと思う。これからも一生懸命勉強して、そしてシャーペンの芯が足りなくなって買いに行ったとき、一緒に払う二十円に、私もそんな願いをこめたい。

南多摩納税貯蓄組合連合会 優秀賞

税金についての疑問

日野市立日野第一中学校

三学年 矢野 友輝

僕は昔から、所得税という制度に疑問を持っていた。それは、高所得者ほど多く税金を支払わなければいけない、という点に対して「どうしても、お金をかせぐほど取られなきゃいけないだろう。」

と、思っていたからだ。公民の授業で逆進性や社会保障といった言葉を習っても、「がんばった分だけとられる。」

という不公平感が自分を不安にさせていた。そこで、「所得の再分配」に関して調べてみることにした。そうすると、自分では考えもしないような答えが見つかった。

まず一つ目が、所得再分配が国全体の治安の改善をもたらす、ということだ。社会福祉は、貧困層の暴動を抑えるという理由から、はるか昔、中世から行われてきたという。現代でも暴動や革命とまではいなくても、治安が悪化するのはいかなくても、治安では、高齢者による万引きやスリといった軽犯罪が増えているらしい。十分な年金を受け取れなかった貧困者が犯罪に手を染めてしまうのだそうだ。社会保障がなかったら、治安は悪化し、常にスリや空き巣に注意しなければならなくなってしまう。

二つ目が、経済情勢の改善だ。景気が悪化すると、就活生の「大企業志向」が強まり、自ら起業することは少なくなる。将来の生活に不安があると、誰もがリスクを回避するよ

うな選択をする。起業を増やし、新しい産業を振興するには、「失敗しても大丈夫だ」という安心感がなければならぬ。そうしたリスクを抑えて、安定した経済成長を維持するためにも、所得の格差を埋めるのは大事なことなんだと知った。

社会全体への影響の他にも、僕は個人的におどろいたことがある。先日、松葉杖をつくようなケガをした時だ。診察をしてもらうと幸い骨は折れておらず、杖をつくのは一週間だけで良いと言われた。安堵すると同時に、診察料が少し高いことに気が付いた。しかし後々それが総額の三割の値段であることを知って、さらにおどろいた。どうやら社会保障の一つである医療保険によって、七割が税金でまかなわれているらしい。もし、医療保険が存在せず、今までの診察費も、これからも全て自己負担だとしたら…と考えると、このために税金を支払っているんだな、と認識させられた。

これから高齢化が進み、社会保障が充実することは、少なからず自分にとって負担になるかもしれない。けれど、納めた税金は必ず誰かの役に立っているんだと前向きな気持ちを持っていきたい。

南多摩納税貯蓄組合連合会 優秀賞

暮らしの中の税金

日野市立日野第三中学校

学年非公表 中山 彩音

私たちの日常には、税金によって支えられているものがたくさんあります。道路の建設や整備、ゴミの収集、公共施設など。その中で特に身近に感じるものが二つあります。

一つは学校生活に関することです。公立学校の児童・生徒一人あたりの一年間の公費負担は、小学校で約98万円、中学校で約128万円、高等学校で約107万円。これに各々の年数を乗じると驚くほどの税金が負担されていることが分かりました。

例えば、学校に設置されている大多数のものが税金で賄われ、新学期に配布される教科書や一人一台貸与されているノートパソコンも税金で購入されたもの。毎日食べる給食にも助成があるそうです。

私の通っている中学校では、二年前に体育館の冷暖房設備設置と、老朽化した校内のトイレの改修工事が行われました。これらの工事も税金によって行われ、学校生活がより豊かなものとなりました。税金が使われていないものを探し出すほうが大変なくらい、支えられていることを、改めて感じました。

二つめは医療費に関する事です。私の住む日野市では、「こども医療費助成制度」という義務教育の終了する中学三年生まで、病院を受診した際の窓口負担が全額助成される制度があります。

生まれてから今日まで、風邪をひいたり、

転んで捻挫をしたり、ダンスで膝を痛めたり、歯の健康を保つために定期健診に行ったり、何度も病院にお世話になっています。検査やレントゲン撮影、薬の処方など、その都度適切な処置を受け、また元気な日常を送ることが出来ています。診察が終わり、窓口で「お支払いはありません」という言葉を耳にする度に、本当は、医療費を支払わなければいけないのに、この制度のおかげで無料で医療行為を受けることが出来る、税金によって支えられていることをとても実感します。

又、医療費助成の動きは、高校生まで広げる市区町村もあり、コロナ禍において、東京都も2023年度から3年間助成を拡大する方針を検討しているという記事も見かけました。社会情勢を鑑みて、未来ある私たちのために税金を投入してくれる動きがあることに感謝しなければいけないと思いました。同時に、自分自身の健康に留意し、限りある税金なのだから、大切に使うなければならぬと強く思いました。

これまで、税金についてあまり深く考えなかったけれど、納められた税金がどれだけのものか、どのようなことに使われているのか、もっと学びたいと思いました。

数年後、私も税金を納める年齢になります。私の納めた税金が次の世代の子供達の豊かな学校生活の支えになれば、とても嬉しいと思いました。

南多摩納税貯蓄組合連合会 優秀賞

税でつくる豊かな生活

日野市立大坂上中学校

三学年 大城 美姫

「千百円になります。」

私はこのとき、店員さんに言われた金額を払うことができなかった。百円を持っていなかったのである。私はレジへ商品を持っていくまで、値段が千円であると思い込んでいたのだ。それもそのはず、税抜きと税込みの値段を勘違いしていたのだ。幸い、父が百円を払ってくれたことで無事商品を買うことができた。父から聞いた話では、現在の消費税は十パーセントだが、父が子供の頃はなんと三パーセントだったそうだ。調べてみたところ、消費税は三パーセントから五パーセント、八パーセント、そして十パーセントと増加している。この流れだと、次は十二パーセントくらいになるのではないか、という考えを抱かずにはいられなかった。

それにしても、なぜここまで消費税が増え続けているのだろうか。私はまず、税金の使い道に注目した。国の歳出について調べてみると、「社会保障」が一番多く、全体の三分の一を占めていた。社会保障とは、医療や介護、福祉などの公的サービスのことで、少子高齢化の進む日本では、費用が増える一方で、それを負担する働き手が減っているという問題が起こっている。そのため、一人一人が多く税を納めなければならぬ。そんな中で広く公平に納める消費税というのは、誰もが平等に払っているものであるから、良い

手段だと言えるのではないだろうか。

しかし、消費税が公平でも、所得の差があつてはこの公平性は成り立たないのではないか。これは逆進性というらしい。裕福な人の百円と、そうでない人の百円というのは価値が異なるのだ。この逆進性の問題の解決案として、所得税が使われる。所得の多い人からはそれに見合う多めの所得税を、逆に所得の低い人からは、少なめの所得税を課すのだ。そうすることで、税金の公平性が成り立つのである。

日本の現在の消費税は十パーセントと高めだが、世界と比べるとあまり有効に活用されていないイメージがある。例えば、デンマークやスウェーデンの消費税は二十五パーセントと世界トップクラスだが、その代わりに医療や福祉が手厚く、国民の生活の安全は保障されている。

このように、現在日本が抱える少子高齢化社会を考えると、税金がこの先増えていくのは仕方がないと思う。しかし、将来私たちが安心して生活できるよう、デンマークやスウェーデンのように有効活用してほしいと思います。

南多摩納税貯蓄組合連合会 優秀賞

～生きるを支える税金に感謝を～

日野市立大坂上中学校

三学年 寺本 柚羽

私は税金に心から感謝しています。私はこ

の作文を書くことをきっかけに、税について色々調べてみましたが、税がこんなにも社会のたくさんの場面で使われていることを初めて知り、驚きました。中でも私が一番感謝したいことは、税が社会保障、つまり、私たちの健康や生活を守るために使われているということです。具体的に言うと、医療・年金・介護・福祉の場面などで利用されています。

私には基礎疾患をもつ妹がいます。自分が原因で病気になってしまったのではないと分かっているのですが、原因は不明です。そんな妹が安心して生活していく上ではどうしても医療を受けるためのお金が必要になります。それを一番支えてくれているのが「税金」です。

今、私が住む東京都では未就学児については医療費の自己負担額の半額を、小・中学生については自己負担額から二百円を引いた額の半額を助成し、残りは市区町村が助成をしてくれているそうです。その他にも、妹のような病気を患っている人にはさらに税金から助成金をだしてもらっています。私たちは、そのような制度があるからこそ安心して医療を受けられる環境にあります。

しかし、今日本では少子高齢化が問題になり、子供の人数が減少している状態にあります。私は思いました。このままで日本は大丈

夫なのだろうか。そう思った時、調べていて見つかったニュースが、「東京都は新たに医療費助成の対象となる期間を15歳から18歳になる年の年度末までにする」というニュースで、子育て世代の呼び込みがねらいだということです。

私はこのニュースを見て、税金は医療を支えてくれているだけではなく、日本の少子高齢化をこれ以上進めないため、日本の将来を守るために使われているんだと感動しました。税金は医療のためだけではなく、使い道はたくさんあります。みなが平等に教育を受けるための税金・私たちがの安全を守るための税金・私が住む大好きな町をきれいに保つための税金と様々です。

今、妹は税金のおかげで笑顔で楽しそうに生活しています。私はこの「生きる」を支えてくれている税金を大切にしたい。そのためには、税金の役割を私のような子供達に伝え続けていくことが重要だと思います。

私はこれから、税金に感謝をして、日々の生活を送っていききたいです。

南多摩納税貯蓄組合連合会 優秀賞

返ってくる恩恵

日野市立大坂上中学校

三学年 八木 跳馬

「税金」。そう聞くと、自分はまず最初にネガティブなイメージを持ってしまっていた。理由としては、小・中学生の最も身近にある税である消費税や、税の教室で勉強した際、あまりにも種類が多く、なんだかめんどくさいなあ、と感じてしまったことにある。実際自分の周りにも、税に対して真剣に向き合っている人というのはあまりおらず、自分もなんとなくのイメージで今日まで生きてきた。しかし、夏休みの宿題としてこのように税の作文が出された。なにを書こうかと悩んでいると、ある出来事を1つ思い出した。

昔、自分がまだ小学低学年だった頃、毎年自分の家はインフルエンザの予防接種を受けに行っていたのだが、自分はそれが嫌で嫌でしかたなく、毎回半泣きになりながら受けていた。そんな時、同伴してくれている母は受けていないのを見て、幼いながらの反抗心で「お母さんも注射しなよ」と言った。すると母は、「あんたはお金がかかないけど、大人はかかるの。」と言った。なんでだろうと疑問を抱いたが、後にその理由は、子供の医療関係にかかるお金は税金で負担されているからと知った。当時はよく分からなかったが、今こうして考えてみると、マイナスなイメージのあった税の恩恵を、このような形で自分が受けていたと思うと、今まで持っていた税に対するイメージを変えなくてはと思いはじめ

た。さらに、注射関連で1つ思い浮かんだことがある。それはコロナのワクチン接種である。このご時世、日本の大半、約1億人が受けているが、このワクチンの費用も全額税で賄われている。それだけではない。エアコンや仕切カーテンなど、会場の設営にかかる費用や、看護師や医者などの給料。これらも全て税金で負担されていたのだ。自分は調べてこの事実を知ったとき、非常に驚いた。今や4回目の接種という話もあるが、そこまできると、費用はとんでもない額に上るだろう。もし仮に税で負担するということができなかったら募金などの手段になると思うのだが、それだけで、かかる莫大な費用を集めようと思うと、いったいいつになったら十分に集まるのか見当もつかない。だが、今自分達はそのいった状態にはならずワクチンを受けることができている。これは全て税金のおかげであり、国民一人一人が負担しているからこそ成り立っていることである。

税金はいろいろめんどくさい。今まで持っていたこのイメージは、今回の調べて分かった事実を通して大きく変わった。今回自分が書いたことは医療関係についてのみだが、他にも公共施設の整備等、自分が受けている税の恩恵は多岐にわたることを知った。これら全てをふまえて、自分は税を、「いつか自分に返ってくる恩恵の前払い」と思うようになった。まだ自分は中学生なので、納税に関してできることは少ないが、大人になった時のため、この考えを持ち続けていこうと思う。

南多摩納税貯蓄組合連合会 優秀賞

安心安全な未来のために

日野市立平山中学校

三学年 山田 智香

「この税金泥棒！」

以前、警察の仕事を放送したテレビ番組で交通の反則切符を切られた違反者が警察官に向かってそう叫んだ。

私の父は現役の警察官で現在地域課に所属しているが、交通課で白バイ乗務員を務めていたことがある。私の母は、もう退職したがやはり交通課、生活安全課などで務めた女性警察官であった。両親共に冒頭の違反者の台詞と同じことを言われたことがあるという。

警察官の給料は国民の税金から支払われている。「税金泥棒」という言葉もここから来ていると思われるが、私もその内容についてよく理解していなかったので、今回少し調べてみた。

国の歳入は、消費税、所得税、法人税、相続税、酒税、たばこ税などの租税及び印紙収入と公債費（国の借金）などがある。歳出は社会保障関係費、公共事業関係費、文教及び科学振興費、防衛関係費などの一般歳出と、地方交付税交付金、国債費などがある。警察官の給料はこの地方交付税交付金から支払われている。ということは、警察官は納税によって自分の給料を自分で支払っている、とも言える。又、時に命を落とすかもしれない、危険な任務に就き、私達の安心安全のために働いてくれているのだから、「税金泥棒」には値しない。

「例えば、交通違反者を一人取り締まろうと、十人取り締まろうと警察官の給料は変わらない。窃盗犯を一人逮捕しようと十人逮捕しようと同様である。だが、より多くの交通違反者を取り締まることで人々の交通状況はより安全なものになり、より多くの窃盗犯を逮捕することで人々の生活はより安心できるものとなる。警察官は税金から給料を支払われている。そのことを重く受けとめ、日々の業務に力を尽くしている。」

私は「税金泥棒」についてただただそこまです言わなくても・・・と考えていただけだった。そのため、この機会に詳しく知ることができた。あくまでも警察官は、私達国民の安心安全を守るため、日々汗を流している。自分達が払った税金で給料が支払われている、というのも納得できるのではないだろうか。国の税金の仕組みや歳入出について学んだ上で、結びつけて自分により、身近な「警察官の給料」という視点で深く「税金」について考えることができた。まだまだ、身近で在り続けるだろう、「税金」。たくさんの視点から未来に向けて行動することが大切だと私は思う。

南多摩納税貯蓄組合連合会 優秀賞

コロナ禍で税について考えた

日野市立大坂上中学校

三学年 氏名非公表

僕の中学校生活はコロナと共に始まった。

緊急事態宣言で入学式もなく学校は休校になった。学校に行くことも同級生に会うことも一度もないまま、授業だけがz o o mで始まった。中学でサッカー部に入ることを楽しみに、体力維持のために近所の公園で運動していたら注意され、外出もほぼできなくなった。マスクや消毒液が手に入らず、緊急事態が解除されても登校できないのかと不安だった。

そんな中、国や自治体によって、マスクが配られ、学校に消毒液が設置され、ワクチン接種が開始され、G o T o キャンペーンが行われ、少しずつ日常が戻ってきた。僕は昨年八月に今住んでいる地域に引っ越してきたが、そのときにP a y P a yのポイント還元キャンペーンのポスターをそこかしこで目にした。コロナで縮小した地域経済を活性化するために、ポイント還元の原因を自治体が負担して行われたキャンペーンだ。こういった国や自治体による様々なコロナ関連対策は税金を使って行われている。また、街中で見かけるコロナの無料検査や、コロナに感染した時の医療費も税金で賄われているそうだ。

そこで税金について調べてみた。納税は勤労、教育と共に国民の義務である。まだ中学生の僕は消費税くらいしか払うことがないが、将来、働くようになったら所得税や住民税を

納めることになるだろう。会社を興したら法人税を納めることになるかもしれない。その他にも多くの種類の税金があり、国税及び地方税を合わせると、税金には五十近くも種類がある。様々な名目で集められた税金は、国の場合は、社会保障関連費、公共事業関連費、文教及び科学技術振興関連費、防衛関連費等に使われている。このうち僕らの健康や生活に欠かせない医療、年金、福祉、介護、生活保護等の公的サービスに使われる社会保障関連費が歳出全体の三十パーセント以上を占め、一番多い。コロナ関連対策の一部もこの社会保障関連費に含まれる。また、令和二年度からは新型コロナウイルス感染症対策の予備費が計上され、未知のウイルスであるコロナに臨機応変で迅速な対応が可能になっている。

そうなのだ。税金は僕らが日常生活を送るために最も多く使われているのだ。言い換えると、僕らのありきたりの日常は税金によって守られているのだ。これまでの日常も、コロナという未曾有の厄災に見舞われている現在において多少の制約があっても日常生活を送れているのも、税金による様々な公的サービスで支えられているからだ。日本は災害の多い国だ。コロナ禍が去ったとしてもまた次の災害が起きるだろう。納税は義務と言われると嫌に思いかもしれない。税金が高いとか、高すぎるとかいう声を聞くこともある。でも僕らの普通の生活を守るために、僕は将来、喜んで納税しよう。